

Title	表紙 目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1957
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.50, No.2 (1957. 2)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19570201--001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

三田學會雜誌

慶應義塾經濟學會

二月號

<p>——ウーグ博士の『フランソワ・ケネーの經濟表』を中心として——</p> <p>渡邊 建(哭)</p>	<p>——J・S・ミル——</p> <p>井村喜代子(元)</p>	<p>——第二次大戰後の世界爲替研究序説——</p> <p>鈴木 諒 一(一六)</p>	<p>世界爲替政策の動向と若干特徴……………金原賢之助(一)</p> <p>生産性指數と分配の問題……………鈴木 諒 一(一六)</p> <p>古典學派の崩壊と「賃労働」分析の轉換……………井村喜代子(元)</p>
---	-----------------------------------	--	---

學界展望
書評及び紹介
經濟學關係文獻目錄

第五十卷 第二號

昭和二十五年二月十一日發行
昭和二十六年二月十三日發行
昭和二十七年二月十四日發行
第三種郵便物認可
第一、九〇三號

昭和二十五年二月二十四日發行
昭和二十六年二月二十四日發行
昭和二十七年二月二十四日發行
第三種郵便物認可
第一、九〇三號

三田學會雜誌 昭和三十一年一月號

定價金七〇圓 (四送圓)

MITA GAKKAI ZASSHI (Mita Journal of Economics)

Vol. 50, No. 1

January, 1957

CONTENTS

Economic Psychology and Psycho-physical	Page
Isomorphism II.....	<i>M. Chubachi</i> (1)
The situation of a local industry	
in contemporary Japan.....	<i>Y. Aonuma</i> (18)
A Study in the American Land Speculation	
.....	<i>K. Nakamura</i> (39)
—Holland Land Company—	
Recent Tendency in the Study of Price History	
.....	<i>K. Watanabe</i> (53)
Reviews and Notes	

Published for
KEIO-GIJUKU KEIZAI GAKKAI
(The Keio Economic Society)
Editorial communications to be sent to
the Editor, Keio-Gijuku Keizai Gakkai,
Keio-Gijuku University,
Mita, Minato-ku, Tokyo, Japan.
Price 70 yen

一九五六年下半年期の國際經濟學における二つの問題……………白石孝(六一)

書評及び紹介

穂積文雄著『英國産業革命史の一断面』……………飯田鼎(七〇)

——ラダイツの研究——

有澤廣巳編『統計學の對象と方法』……………佐藤保(七〇)

——ソヴェト統計學論争の紹介と検討——

世界爲替政策の動向と若干特徴

——第二次大戰後の世界爲替研究序説——

金原賢之助

目次

- 一、爲替政策の意義及び範圍
- 二、爲替政策の類別
- 三、爲替政策の動向
- 四、通貨の交換性とポンドの地位
- 五、自由交換性の意義
- 六、イギリスの爲替政策とポンドの交換性
- 一、爲替政策の意義及び範圍

本稿は第二次大戰以降に於ける世界爲替研究の序説として、その一斑に觸れようとするものであるが、まずそのために一應爲替政策の意義から述べておこうと思う。蓋しこれを明かにすることは、結局第二次大戰後に於ける爲替政策の地位とその特徴を明かにする所となるからである。

爲替政策(exchange policy)は、これを端的に言うと、爲替相場に對して何等かの影響を興えようとする政策である。これが、私

世界爲替政策の動向と若干特徴

がこれまで採つてきた解釋である。^(註1)而して外國爲替手形並びにその他外國に於て資金を取得し得る一切の權利を總稱した廣義の外國爲替(Destiny)は必然的に爲替相場と關連し、それらを切離すことは出来ないものであるから、外國爲替の手段に關する政策は、爲替相場に關するそれと理解されるのである。

(註1) 拙著「戦時世界經濟の物價・通貨・爲替」三四二頁。
ところで、爲替政策の目標となる爲替相場なるものは、周知の通り、一國貨幣と他國貨幣との交換比率であり、これを爲替取引の面からみると、自國資金を以つて外國資金を賣買する價格である。爲替相場がかかる價格の一種である以上、その變動は外國爲替に對する需要供給の關係に依存し、その需給の均衡するところに落着くものであると言える。従つて外國爲替の需給を醸生し得るすべての條件は爲替相場に影響を及ぼし得るのであつて、例えば通貨、物價、金利、貿易、關稅、投機、生産、雇用等の如き經濟的條件は固よりのこと、政治、外交、軍事、自然等の如き經濟外的條件に至るまで、すべてそれに屬している。換言すれば、これらの經濟的並びに